Ⅱ．経　済　学　部

ここでは経済学部に関する質問項目間の相関係数から評価項目の間の関連性を概観し、さらに 2006 年度結果と比較することで、FD の方向性を検討する。

A) 集計データからわかること

１．どのような項目が、「総合評価」の高さと相関しているか

まず講義については、やはり「理解しやすく」、「新たな知見を得られる」授業の評価が高いことが明らかになった。なお、この２要因は相互に関連しており（相関係数は 0.696）、新しい知見が得られるためには、理解しやすいことが前提だという因果関係があると思われる。

次に演習について、「Q10 総合的評価」と相関の高い項目を見てみると、１位「Q9 新たな知見を得た」(0.772)、２位「Q7 理解しやすい」(0.771)となっている。両者の差はわずかであり、また演習においてもこの 2 要因は相互に関連しているが（相関係数は 0.696）、演習においては、より「新たな知見を得る」ことが評価されている。

つまり、講義においては「理解しやすさ」、演習においては「新たな知見を得た」ことが、高い評価の要因となっている。

２．「理解しやすさ」（講義）、「新たな知見を得た」（演習）は何と関連しているか

それでは、この総合的評価と関連が大きい２項目に関して、他のどのような項目と関連が大きいのか検討してみる。

まず、講義において「Q7 理解しやすい」と関連の高い項目をみると、「Q8 話し方が適切」(0.776)が最も相関が高く、以下、「Q9 新たな知見を得た」(0.696)、「Q5 教員の熱意」(0.661)「Q12 教材の適切さ」(0.659)「Q11 板書・提示が適切」(0.653)などとの相関が高い。特に「話し方の適切さ」が重視されているのは、注目に値する。

次に、演習において「Q9 新たな知見を得た」と関連の高い項目をみてみると、前述のように当然前提となる「Q7 理解しやすい」を別にすると、「Q8 話し方が適切」(0.670)、「Q5 教員の熱意」(0.627)、「Q6 環境の保全」(0.594)、「Q14 課題解決への援助」(0.592)、「Q13 発言環境の整備」(0.576)、などの相関が高い。やはりここでも「話し方の適切さ」の重要性が明らかになっている。また、「課題解決への援助」が重視されている点は、演習ならではの特性だと考えられる。

まとめると、講義、演習を問わず、「適切な話し方」→「理解のしやすさ」→「新たな知見の獲得」という因果的な関係にあるように思われる。

３．授業への「出席率」と「意欲」

次に、授業への「Q1 出席率」と評価の関係を見てみる。

まず講義で見ると、「Q1 出席率」と最も相関が高いのは、「Q2 意欲」(0.389)であり、続いて、「Q10 総合的評価」(0.160)、「Q9 新たな知見を得た」(0.157)、「Q5 教員の熱意」(0.156)、「Q12 教材の適切さ」(0.153)という順位になる。ただし、「Q2 意欲」を除くと、いずれの相関係数も統計的に有意ではあるが、相関は強くない。

演習でも、「Q1 出席率」との相関が最も高いのは「Q2 意欲」(0.231)であるが、その他の項目では相関係数は全般的に低く、2 番目に高い「Q13 活発な議論の誘導」でも相関係数は 0.058 である。これは、演習の方が出欠の自由度が相対的に低いためであると考えられる（8 割以上出席と回答している割合は講義が約 8 割なのに対し、演習は 9 割強である）。

つまり、「評価の高い授業にはよく出席する」という傾向も、「よく出席した授業の評価は高い」という傾向も顕著なものではない。

そこで次に「Q2 意欲的に取り組んでいる」と評価の関連を見る。

まず講義で見ると、「Q2 意欲」と相関が高いのは、「Q9 新たな知見を得た」(0.512)、「Q10 総合的評価」(0.482)、「Q7 理解しやすい」(0.423)、「Q5 教員の熱意」(0.403)であり、単なる出席率と比較して、評価との関連が高い。

次に演習でみても、ほぼ同様の傾向が見られる。すなわち、「Q2 意欲」は、「Q9 新たな知見を得た」(0.452)、「Q10 総合的評価」(0.429)、「Q5 教員の熱意」(0.398)、「Q6 環境の保全」(0.392)などとの相関が比較的高い。

講義、演習いずれの場合でも、「Q9 新たな知見を得た」との相関が最も高いことから、「意欲的な取り組み」と「新たな知見の獲得」の間に重要な関連（恐らく双方向的な因果関係）があるものと推測される。

なお、「Q1 出席率」と「Q2 意欲的な取り組み」との間にある程度の相関（講義 0.389、演習 0.231）が認められることから、①意欲的に取り組んでいる学生の多くは出席率も高いであろうが、逆に出席率の高い学生がすべて意欲的であるわけではないこと、②授業の評価と関連を持っているのは、（単なる出席率ではなく）意欲を持って出席していることであること、が推測される。

４．「授業レベル」と「授業スピード」

さらに、「Q3 授業レベル」と「Q4 授業スピード」と評価との関係を見てみる。まず、この 2 項目間の相関は、講義、演習ともに比較的高く（講義 0.574、演習 0.474）、学生にとっては、適切なレベルと適度なスピードが同様に重要であることが示唆される。

まず講義について、「Q3 授業レベル」と相関が高いのは「Q7 理解しやすい」(0.316)であり、「Q4 授業スピード」と相関が高いのは「Q8 話し方が適切」となっている。したがって、学生が適切なレベル・スピードであると感じるためには、教師の側のプレゼンテーションの仕方も重要であると推測される。

演習についても、講義と同様に、「Q3 授業レベル」と相関が高いのは「Q7 理解しやすい」(0.162)であり、また、「Q4 授業スピード」と相関が高いのも「Q7 理解しやすい」(0.167)となっている。

なお、講義・演習ともに、「Q3 授業レベル」については、「高すぎる」、「やや高すぎる」が「低すぎる」、「やや低すぎる」を上回っており、また、「Q4 授業スピード」については、「速すぎる」、「やや速すぎる」が「遅すぎる」、「やや遅すぎる」を上回っている。しかし、「Q10 総合的評価」との相関を見ると、「Q3 授業レベル」や「Q4 授業スピード」は他の項目と比較してそれほど高くない（「Q3 授業レベル」は講義 0.278、演習 0.146、「Q4 授業スピード」は講義 0.235、演習 0.166）ことから、多少レベルの高い内容であっても、できるだけわかりやすいプレゼンテーションを工夫することで、高い評価が得られる可能性があると推測される。

５．2006 年度結果との比較

本年度の結果を、昨年度の結果と比較して、どの項目において、どの程度改善が見られたかを確認する。具体的には、各質問項目の平均値（科目ベース）を比較することとする。ただし、「Q3 授業レベル」と「Q4 授業スピード」は昨年度と本年度とでは集計方法が異なるので、比較対象から除く。

まず特筆すべきは、講義の比較対象となる 10 の質問項目のすべてにおいて、また、演習の比較対象質問項目 10 のうち 8 項目において、改善が見られている点である。

講義において、最も改善幅が大きいのは「Q2 学生の意欲的な取り組み」（平均値の差は 0.11）であり、「Q9 新たな知見を得た」(0.08)、「Q6 環境の保全」(0.07)、「Q8 話し方が適切」(0.07)、「Q11 板書・提示が適切」(0.07)が続く。「適切な話し方」や「適切な板書等」は「理解のしやすさ」につながる項目であり、こうした面における教師側の努力が、学生の意欲を引き出していると推測される。他方、「Q12 教材の適切さ」(0.02)は、改善幅が比較的小さい。「適切な教材」も「理解のしやすさ」につながる重要な要因の一つであり、今後さらなる改善が望まれるところである。

他方、演習においては、全般的に講義に比べると改善幅が小さい。これは、講義に比べると全般的に平均値が高いことが関係していると思われる。そのなかでも、比較的改善幅が大きいのは「Q6 環境の保全」(0.05)、「Q1 出席率」(0.04)、「Q2 意欲」(0.04)であり、他方、改善が見られないのは「Q5 教員の熱意」(-0.03)、「Q13 課題解決への援助」(-0.03)である。改善の見られない 2 項目については、「新たな知見を得る」ことにつながる重要な要因であり、今後の改善が望まれる。

B) 今後の授業改善に向けて

以上の分析から、講義については、学生が授業を評価する際に重要な指標としている「理

解のしやすさ」は、「適切な話し方」、「教員の熱意」、「適切な教材」、「適切な板書・提示」などの項目と関連性が高いことが確認された。このうち、「適切な板書・提示」などについては、昨年度と比較して改善が見られるものの、「適切な教材」については、改善幅が十分なものとは言えない。今後さらに教材の改善を図ることが、学生の理解度を高め、ひいては講義の評価を高める上で重要な課題であると考えられる。

演習については、学生が授業を評価する際に重要な指標としている「新たな知見を得た」は、「適切な話し方」、「教員の熱意」、「環境の保全」、「課題解決への援助」などの項目と関連性が高いことが確認された。このうち、「環境の保全」などについては昨年度からの改善が見られるものの、「課題解決への援助」については改善が見られない。今後、学生が課題に取り組むことを積極的に手助けすることが、学生の知見を高め、演習の評価を改善する上で、重要であると考えられる。

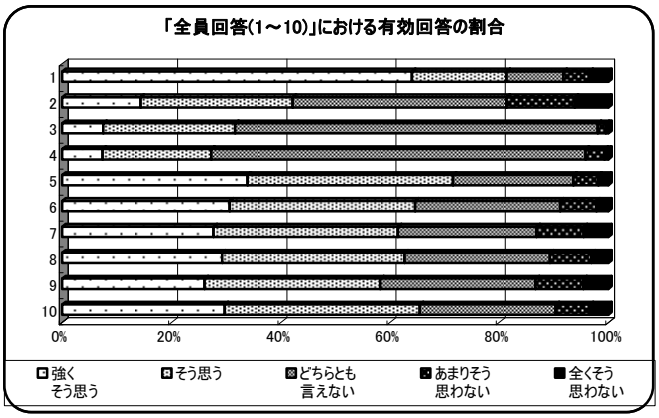
学習院大学　平成19(2007)年度　授業評価アンケート　集計結果

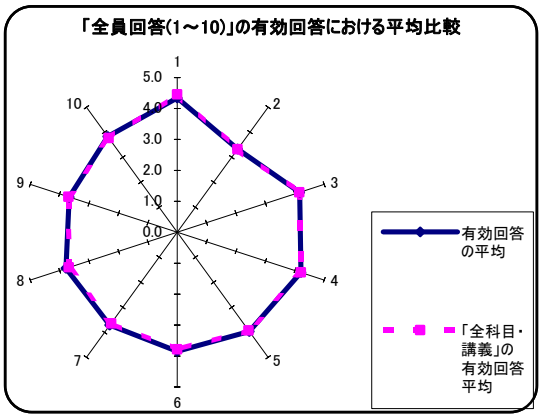
部門名　経済学部

	合計	総履修者数	回収率
回収数	7,639	22,565	33.85%

形態名　講義

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース 5 強くそう思う	4 そう思う	3 どちらとも言えない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無回答	計	学生回答単純集計平均	学生回答単純集計標準偏差	科目ベース 部門別形態別平均	部門別形態別標準偏差
「全員」回答	1	私はこの授業によく出席している 5:出席率90%以上　4:出席率89～80% 3:出席率79～70%　2:出席率69～50% 1:出席率49%以下	4,818	1,308	779	359	262	113	7,639	4.34	1.065	4.33	0.422
			63.07%	17.12%	10.20%	4.70%	3.43%	1.48%	100.00%				
	2	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	1,076	2,084	2,933	935	461	150	7,639	3.32	1.060	3.52	0.605
			14.09%	27.28%	38.40%	12.24%	6.03%	1.96%	100.00%				
	3	この授業のレベルについて 5:高すぎる　4:やや高すぎる 3:適切である　2:やや低すぎる 1:低すぎる	565	1,818	4,987	111	36	122	7,639	4.17	1.270	4.21	0.613
			7.40%	23.80%	65.28%	1.45%	0.47%	1.60%	100.00%				
	4	この授業を進める速さについて 5:速すぎる　4:やや速すぎる 3:適切である　2:やや遅すぎる 1:遅すぎる	560	1,493	5,155	261	51	119	7,639	4.21	1.268	4.36	0.511
			7.33%	19.54%	67.48%	3.42%	0.67%	1.56%	100.00%				
	5	授業に対する教員の熱意が感じられる	2,555	2,825	1,661	341	136	121	7,639	3.97	0.951	4.09	0.499
			33.45%	36.98%	21.74%	4.46%	1.78%	1.58%	100.00%				
	6	教員は教室内が学習にふさわしい状態に保たれるよう心がけている	2,311	2,550	1,998	502	162	116	7,639	3.84	1.005	4.05	0.489
			30.25%	33.38%	26.16%	6.57%	2.12%	1.52%	100.00%				
	7	教員は理解しやすい授業を行っている	2,084	2,534	1,910	646	340	125	7,639	3.72	1.096	3.90	0.574
			27.28%	33.17%	25.00%	8.46%	4.45%	1.64%	100.00%				
	8	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である	2,203	2,511	1,998	573	231	123	7,639	3.78	1.046	3.97	0.527
			28.84%	32.87%	26.16%	7.50%	3.02%	1.61%	100.00%				
	9	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、新しいものの見方が得られたりした	1,959	2,419	2,137	655	343	126	7,639	3.66	1.092	3.87	0.569
			25.64%	31.67%	27.97%	8.57%	4.49%	1.65%	100.00%				
	10	総合的に見てこの授業は高く評価できる	2,229	2,672	1,858	467	255	158	7,639	3.82	1.035	3.99	0.543
			29.18%	34.98%	24.32%	6.11%	3.34%	2.07%	100.00%				
「講義」「語学」のみ	11	板書の仕方やスライド提示の仕方は適切である	1,887	2,287	1,940	789	349	387	7,639	3.63	1.122	3.80	0.599
			24.70%	29.94%	25.40%	10.33%	4.57%	5.07%	100.00%				
	12	教材(教科書、配布資料等)の内容は適切である	2,020	2,435	1,977	538	268	401	7,639	3.75	1.058	3.90	0.527
			26.44%	31.88%	25.88%	7.04%	3.51%	5.25%	100.00%				





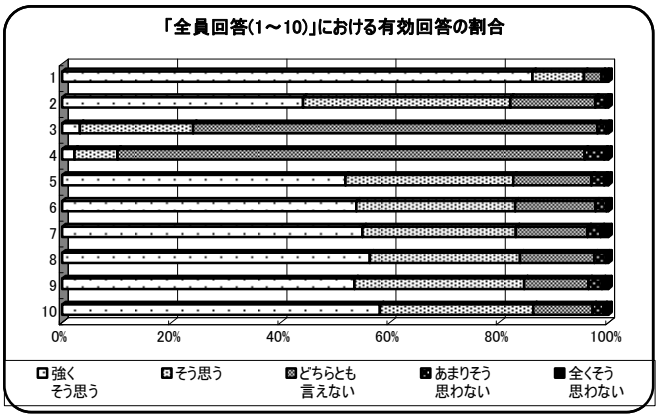
学習院大学　平成19(2007)年度　授業評価アンケート　集計結果

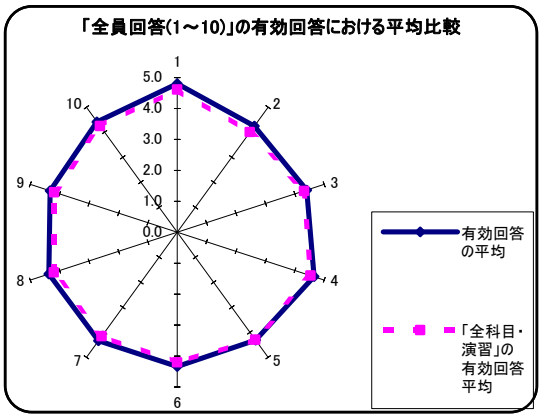
部門名　経済学部

	合計	総履修者数	回収率
回収数	1,649	2,026	81.39%

形態名　演習

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース 5 強くそう思う	4 そう思う	3 どちらとも言えない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無回答	計	学生回答単純集計平均	学生回答単純集計標準偏差	科目ベース 部門別形態別平均	部門別形態別標準偏差
「全員」回答	1	私はこの授業によく出席している 5:出席率90%以上　4:出席率89～80% 3:出席率79～70%　2:出席率69～50% 1:出席率49%以下	1,401	154	52	11	9	22	1,649	4.80	0.576	4.75	0.344
			84.96%	9.34%	3.15%	0.67%	0.55%	1.33%	100.00%				
	2	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	715	614	251	30	9	30	1,649	4.23	0.817	4.24	0.386
			43.36%	37.23%	15.22%	1.82%	0.55%	1.82%	100.00%				
	3	この授業のレベルについて 5:高すぎる　4:やや高すぎる 3:適切である　2:やや低すぎる 1:低すぎる	53	336	1,201	25	7	27	1,649	4.41	1.064	4.41	0.443
			3.21%	20.38%	72.83%	1.52%	0.42%	1.64%	100.00%				
	4	この授業を進める速さについて 5:速すぎる　4:やや速すぎる 3:適切である　2:やや遅すぎる 1:遅すぎる	37	128	1,387	58	12	27	1,649	4.65	0.905	4.67	0.337
			2.24%	7.76%	84.11%	3.52%	0.73%	1.64%	100.00%				
	5	授業に対する教員の熱意が感じられる	841	498	232	38	12	28	1,649	4.31	0.854	4.31	0.517
			51.00%	30.20%	14.07%	2.30%	0.73%	1.70%	100.00%				
	6	教員は教室内が学習にふさわしい状態に保たれるよう心がけている	875	472	239	32	6	25	1,649	4.34	0.826	4.35	0.433
			53.06%	28.62%	14.49%	1.94%	0.36%	1.52%	100.00%				
	7	教員は理解しやすい授業を行っている	894	456	213	39	23	24	1,649	4.33	0.893	4.34	0.516
			54.21%	27.65%	12.92%	2.37%	1.39%	1.46%	100.00%				
	8	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である	913	445	220	34	8	29	1,649	4.37	0.831	4.37	0.454
			55.37%	26.99%	13.34%	2.06%	0.49%	1.76%	100.00%				
	9	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、新しいものの見方が得られたりした	868	504	191	40	19	27	1,649	4.33	0.864	4.36	0.477
			52.64%	30.56%	11.58%	2.43%	1.15%	1.64%	100.00%				
	10	総合的に見てこの授業は高く評価できる	942	454	176	32	14	31	1,649	4.41	0.826	4.42	0.480
			57.13%	27.53%	10.67%	1.94%	0.85%	1.88%	100.00%				
「演習」「語学」のみ	13	教員は参加者が活発に発言や議論が行えるよう心がけていた	818	488	203	49	15	76	1,649	4.30	0.877	4.31	0.510
			49.61%	29.59%	12.31%	2.97%	0.91%	4.61%	100.00%				
	14	教員は参加者が課題に取り組むのを助けた	828	489	204	38	10	80	1,649	4.33	0.839	4.33	0.438
			50.21%	29.65%	12.37%	2.30%	0.61%	4.85%	100.00%				





相関係数表　　**部門名**　**経済学部**
形態名　**講義**

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12
Q1	1											
Q2	.389(**)	1										
Q3	−0.023	.105(**)	1									
Q4	−.058(**)	.034(**)	**.574(**)**	1								
Q5	.156(**)	**.403(**)**	.097(**)	.065(**)	1							
Q6	.128(**)	.358(**)	.102(**)	.101(**)	**.639(**)**	1						
Q7	.120(**)	**.423(**)**	.316(**)	.264(**)	**.661(**)**	**.633(**)**	1					
Q8	.093(**)	.367(**)	.252(**)	.267(**)	**.599(**)**	**.595(**)**	**.776(**)**	1				
Q9	.157(**)	**.512(**)**	.255(**)	.197(**)	**.592(**)**	**.533(**)**	**.696(**)**	**.656(**)**	1			
Q10	.160(**)	**.482(**)**	.278(**)	.235(**)	**.697(**)**	**.629(**)**	**.815(**)**	**.742(**)**	**.791(**)**	1		
Q11	.110(**)	.365(**)	.202(**)	.185(**)	**.554(**)**	**.507(**)**	**.653(**)**	**.607(**)**	**.556(**)**	**.653(**)**	1	
Q12	.153(**)	.379(**)	.222(**)	.191(**)	**.578(**)**	**.513(**)**	**.659(**)**	**.614(**)**	**.580(**)**	**.675(**)**	**.773(**)**	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

相関係数表　　**部門名**　**経済学部**
形態名　**演習**

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q13	Q14
Q1	1											
Q2	.231(**)	1										
Q3	−0.048	0.023	1									
Q4	−0.026	0.037	**.474(**)**	1								
Q5	.051(*)	.398(**)	0.038	.096(**)	1							
Q6	.055(*)	.392(**)	0.008	.105(**)	**.698(**)**	1						
Q7	−0.001	.369(**)	.162(**)	.167(**)	**.689(**)**	**.719(**)**	1					
Q8	0.008	.359(**)	.079(**)	.118(**)	**.640(**)**	**.666(**)**	**.795(**)**	1				
Q9	0.021	**.452(**)**	.107(**)	.141(**)	**.627(**)**	**.594(**)**	**.696(**)**	**.670(**)**	1			
Q10	0.032	**.429(**)**	.146(**)	.166(**)	**.705(**)**	**.665(**)**	**.771(**)**	**.718(**)**	**.772(**)**	1		
Q13	.058(*)	.386(**)	.071(**)	.097(**)	**.565(**)**	**.560(**)**	**.606(**)**	**.569(**)**	**.576(**)**	**.634(**)**	1	
Q14	0.007	.362(**)	.075(**)	.082(**)	**.574(**)**	**.562(**)**	**.638(**)**	**.597(**)**	**.592(**)**	**.644(**)**	**.686(**)**	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。
* 相関係数は5%水準で有意(両側)です。

【全員回答】

Ｑ１　私はこの授業によく出席している

Ｑ２　私はこの授業に意欲的に取り組んでいる（事前の準備や復習等を含む）

Ｑ３　この授業のレベルについて

Ｑ４　この授業を進める速さについて

Ｑ５　授業に対する教員の熱意が感じられる

Ｑ６　教員は教室内が学習にふさわしい状態に保たれるよう心がけている

Ｑ７　教員は理解しやすい授業を行っている

Ｑ８　教員の話し方（スピード、聞き取りやすさ）は適切である

Ｑ９　この授業によって知的好奇心が刺激されたり、新しいものの見方が得られたりした

Ｑ10　総合的に見てこの授業は高く評価できる

【授業形態が「講義」「語学」の場合のみ回答】

Ｑ11　板書の仕方やスライド提示の仕方は適切である

Ｑ12　教材（教科書、配布資料等）の内容は適切である

【授業形態が「演習」「語学」の場合のみ回答】

Ｑ13　教員は参加者が活発に発言や議論が行えるよう心がけていた

Ｑ14　教員は参加者が課題に取り組むのを助けた